

## お父さんの「一番」

岐阜県 岐阜大学教育学部附属小学校 四年

若原 弘典わかはら ひろのり

「どうせお父さんはお兄ちゃんが好きなんでしょ。」  
これは二才ちがいの弟が、五才のころに言った言葉。

このころのぼくは、一番お父さんにかわいがられていた。でも、この言葉のようなじょうたいは、長くは続かなかった。

たしかに、ぼくは長男で、初孫で、親せきのみんなにかわいがられてきたと思う。

でも、最近ほ、ぼくより小さい子が「うじゃうじゃ」いて、ぼくだけを見てくれなくなつた。

ぼくは、自分の居る場所がとられてしまったような気がした。

そんな時、ぼくと、お父さんと、弟と、いとこで夏祭りの花火を見に行くことになつた。

歩いて行くうちゅう、出店で買い物をしてぼくがゴミ箱にゴミを捨てようと、お父さん達からはなれた時、お父さんたちは、ぼくをおいて先に行つてしまつた。

ぼくが迷子になつても気付かないんじゃないの？ぼくは、なんだか悲しい気持ちになつた。

それで、ぼくは、お父さんたちに追いつくと、人ごみでこつたがえす中、お父さんたちをおいて先に行つてやつた。

ゆかたを着た小さいいこと手をつないでいたお父さんが、追いつけないスピードで。だつて、腹が立つたから。

でも、本当はわかつていたんだ。お父さんは、弟といこと手をつないで両手がふさがつていたし、おりたたみのイスを六つもかたからさげて、あの人ごみの中を歩くのは大変だつたつてことは。

ぼくだけを見てほしいと思うのは、わがままなのかな。  
夜おそくまで働いて、つかれきつて帰つてくるお父さん。仕事

のストレスで、なんだかやせてしまつたお父さん。防災の仕事で、呼び出しがあると、夜中でも飛び起きて出勤していくお父さん。

ぼくは知つている。がんばつて働くお父さんのすがたを。それでも、休みの日は、ぼくのために時間を作つて遊んでくれる。

よく考えれば、今も、ぼくはお父さんの「一番」だと分かる。わがままでお父さんを困らせたことをこうかいした。

ぼくだけだつたところがつて、弟や最近生まれた妹もいっしょに「一番」になつただけで、ぼくが「一番」だつてことはずつと変わつていながつた。

これからは、ぼくだけを見てほしいとお父さんを困らせる代りに、お父さんといっしょに、弟や妹をかわいがろうと思

う。

だつて僕の「一番」はお父さんだから。